

新様式

2002年1月

*：2003年2月改訂

薬事法改正に伴う改訂

2005年5月

**2005年9月改訂

ご使用に際して、この説明書を必ず読んで下さい。

また、必要な時に読めるよう本剤とともに保存して下さい。

東洋漢方の小青龍湯

(しょうせいりゅうとう)

第2類医薬品

10包入

本剤は、漢方の古典「傷寒論」「金匱要略」に収載されている小青龍湯に準拠して製造された煎薬用の紙パック剤です。



使用上の注意



相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談すること

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| (1) 医師の治療を受けている人。 | (6) 高齢者。 |
| (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。 | (7) 今までに薬により発疹・発赤、かゆみ等を起こしたことがある人。 |
| (3) 体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）。 | (8) 次の症状のある人。：むくみ、排尿困難 |
| (4) 胃腸の弱い人。 | (9) 次の診断を受けた人。：高血圧、心臓病、腎臓病、甲状腺機能障害 |
| (5) 発汗傾向の著しい人。 | |

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談すること

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合。

関係部位	症 状	関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ	消 化 器	悪心、食欲不振、胃部不快感
まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けること。			
症状の名称		症 状	
偽アルドステロン症		尿量が減少する、顔や手足がむくむ、まぶたが重くなる、手がこわばる、血圧が高くなる、頭痛等があらわれる。	
*肝 機 能 障 害		全身のだるさ、黄疸(皮ふや白目が黄色くなる)等があらわれる。	
**間 質 性 肺 炎		せきを伴い、息切れ、呼吸困難、発熱等があらわれる。	

(2) 1 力月位（鼻水、うすい水様の痰を伴う咳に服用する場合には数日間）服用しても症状の改善がみられない場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談すること。

3. 長期連用する場合には、医師又は薬剤師に相談すること

【効能・効果】

気管支炎、気管支ぜんそく、鼻水、うすい水様の痰を伴う咳、鼻炎。

【用法・用量】

1 包（1 日量）につき水400mLの水をもって煮て200mLに煮つめ、滓をこして取り去り、食前に温服して下さい。

年 齢	1包(1日量) 煎じ液	1 日服用回数	年 齢	1包(1日量) 煎じ液	1 日服用回数
大人(15才以上)	全 量	3 回に分けて	7 才未満 4 才以上	1/2量	3 回に分けて
15才未満 7 才以上	2/3量		4 才未満 2 才以上	1/3量	

〈用法及び用量に関連する注意〉

- (1) 定められた用法・用量を厳守すること。
(2) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

【成分・分量】 [本品1 包（1 日量）18.0 g 中]

日本薬局方 マ オ ウ……………2.0 g	日本薬局方 ケ イ ヒ……………2.0 g
日本薬局方 シ ャ ク ヤ ク……………2.0 g	日本薬局方 サ イ シ ……2.0 g
日本薬局方 シ ョ ウ キ ョ ……2.0 g	日本薬局方 コ ミ シ ……3.0 g
日本薬局方 カ ン ソ ウ……………2.0 g	日本薬局方 ハ ン ゲ……………3.0 g

保管及び取扱い上の注意

- (1) 小児の手のとどかない所に保管すること。
(2) 直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に保管すること。
(3) 誤用をさけ、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
(4) 煎じ薬は腐敗しやすいので、冷暗所又は冷蔵庫等に保管し、服用時に再加熱して服用すること。



製品内容についてのお問い合わせは、お買い求めのお店、または下記にお願い申し上げます。

製造販売元

 東洋漢方製薬株式会社

大阪府富田林市中野町東2-1-16

 0120-00-1040

受付時間 10:00～17:00(土、日、祝日を除く)